



経営分析について

令和6年2月15日
宇都宮市上下水道局

1 水道事業会計の経営分析

(1) 財政の健全性

(2) 施設の健全性

2 下水道事業会計の経営分析

(1) 財政の健全性

(2) 施設の健全性

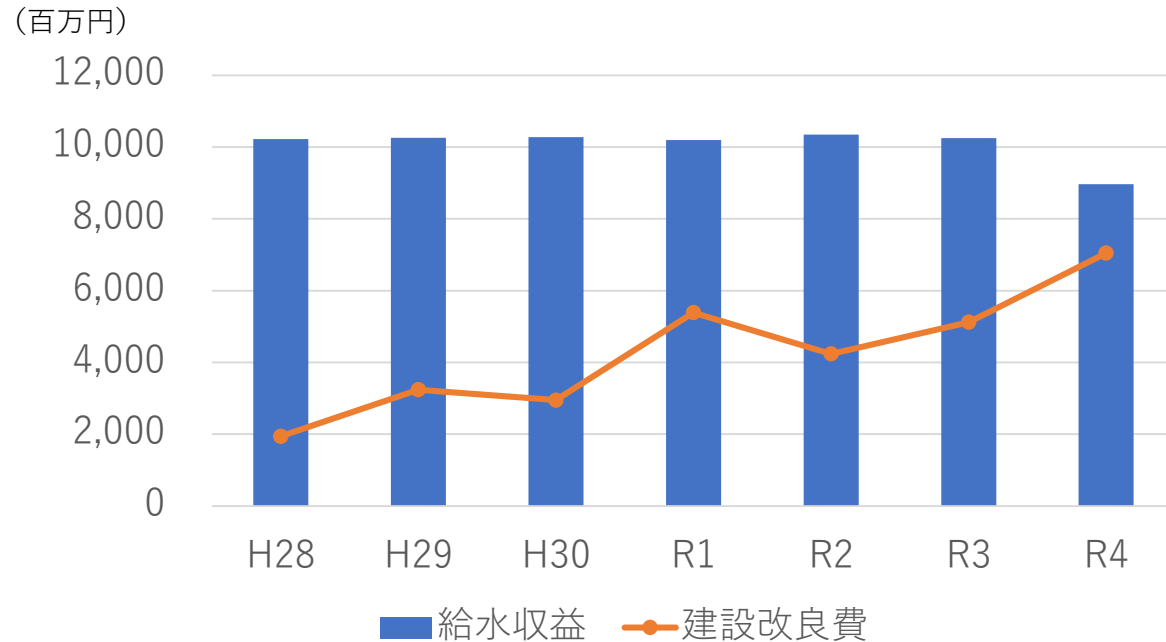
3 まとめ



1 水道事業会計の経営分析

(1) 財政の健全性

1 主な収入と支出

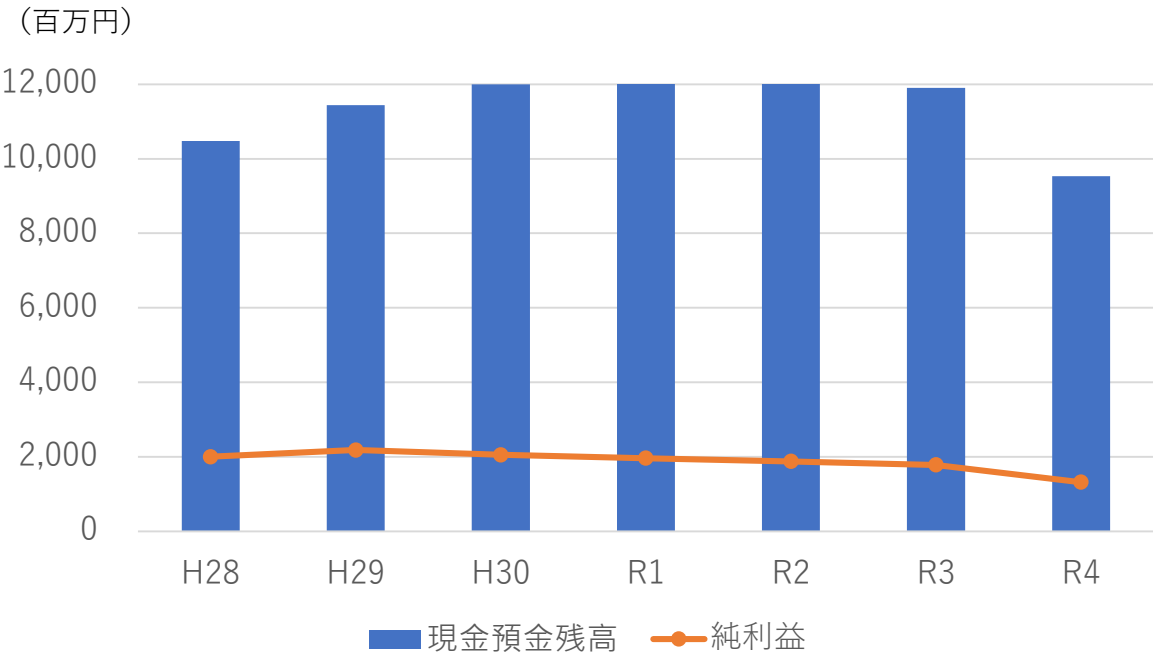


指標	説明
給水収益	水道料金としての収入で、水道事業の根幹となる収入
建設改良費	施設・管路等の新設や更新、耐震化などに要する経費

- ・ 給水収益は、横ばいで推移（令和4年度は、基本料金免除の影響で減少）
- ・ 建設改良費は、施設・老朽管路の更新等に係る経費の増加に伴い、近年、大きく増加。

(1) 財政の健全性

2 資金

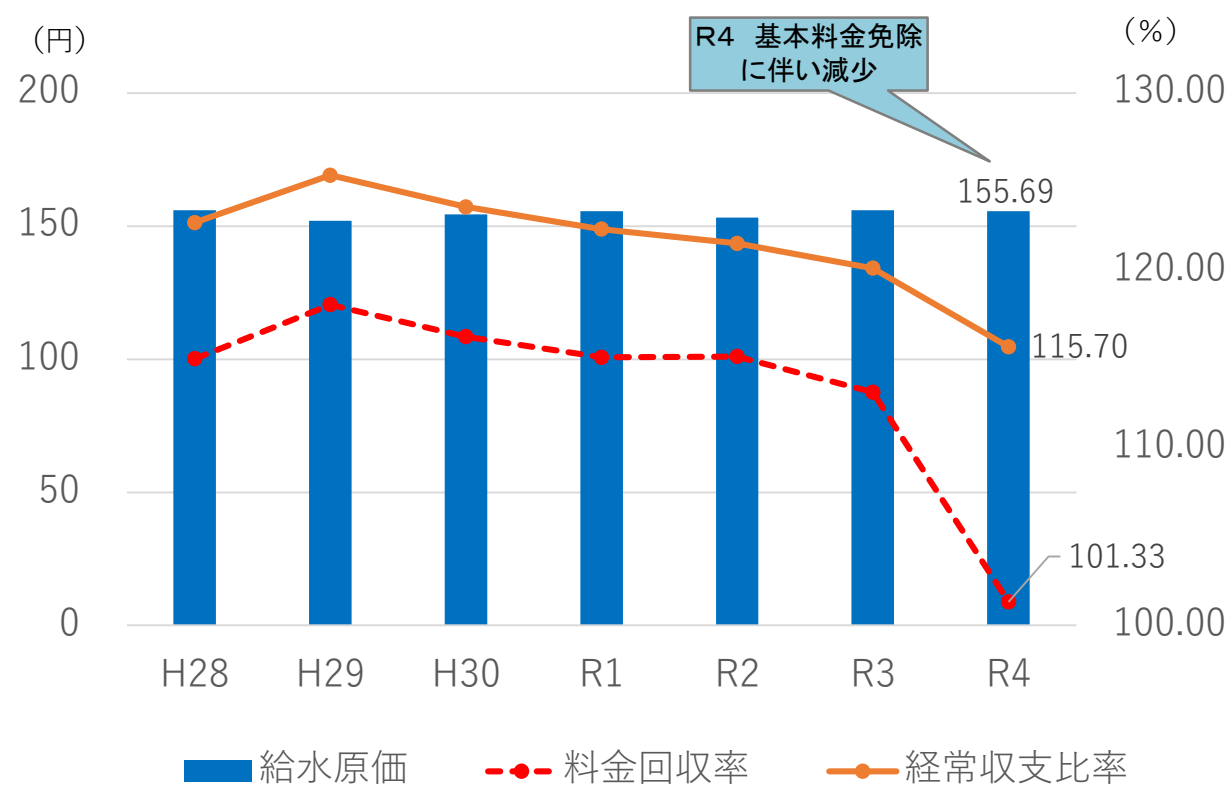


指標	説明
現金預金残高	—
純利益	公営企業における維持管理等の事業活動の結果、生じるもので、積立金として、主に企業債の償還の財源として活用している。

- ・ 現金預金残高は、今後の膨大な更新需要等に備え増加させてきたが、建設改良費の増などに伴い、令和4年度は大きく減少。
- ・ 純利益は、施設の老朽化等に伴う事業活動経費の増などに伴い、減少傾向。

(1) 財政の健全性

3 財務指標①

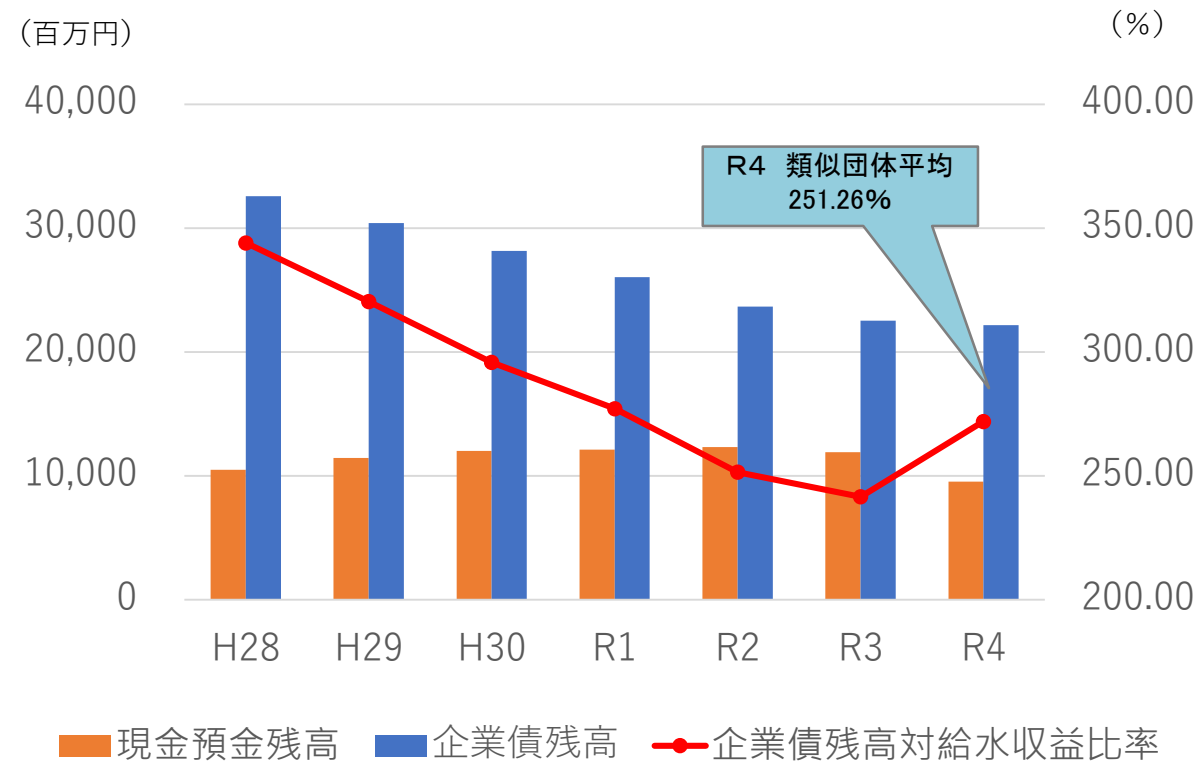


指標	説明
給水原価	水 1 m ³ を給水するためにいくら費用がかかったかを示す。
料金回収率	給水に係る費用を、どの程度、給水収益で賄えているかを示す。100%を下回る場合、給水に係る費用が水道料金以外の収入で賄われていることとなり、適正な料金収入の確保が求められる。
経常収支比率	施設の維持管理等の経常費用が、給水収益等の経常収益でどの程度賄われているかを示す。100%未満は収支が赤字であることを示し、比率は高いほど良いとされる。

- ・ 給水原価は、横ばいで推移。
- ・ 料金回収率・経常収支比率ともに100%を上回っているが、近年、減少傾向（財務状況は悪化）

(1) 財政の健全性

3 財務指標②

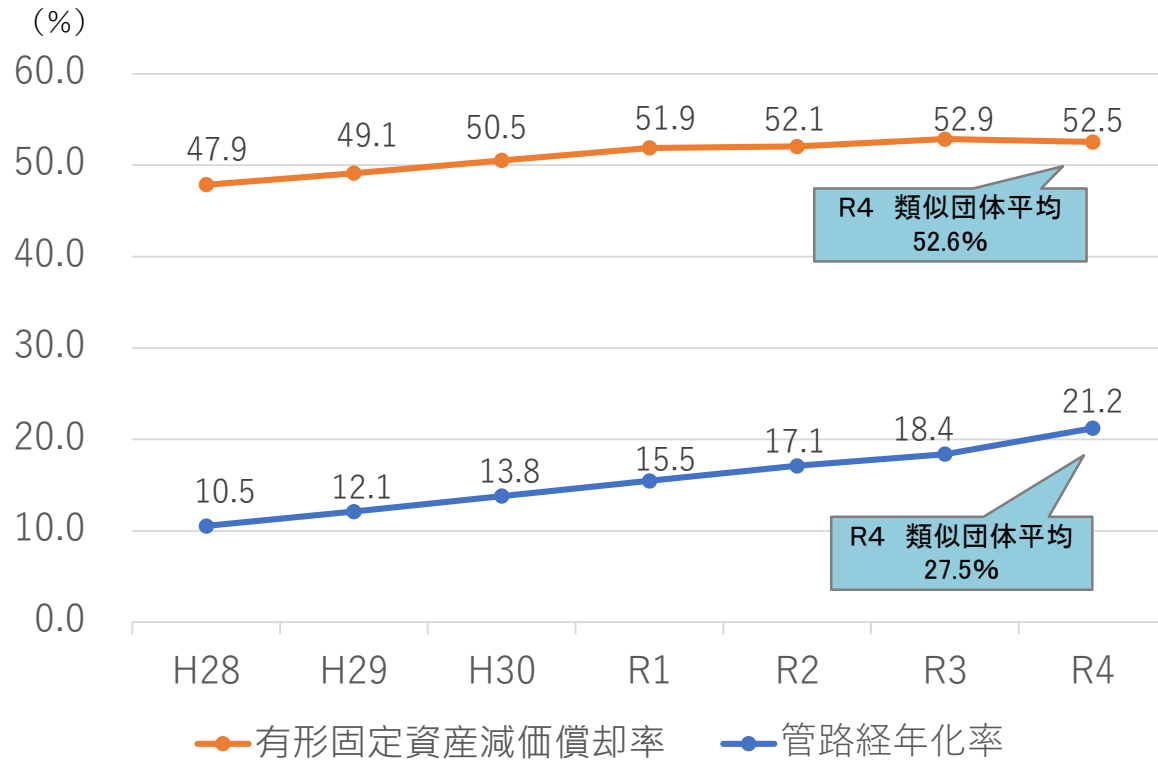


指標	説明
現金預金残高	—
企業債残高	企業債による借入金の残高
企業債残高対給水収益比率	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す。

・ 企業債残高、企業債残高対給水収益比率ともに企業債の計画的な抑制を図ってきたことにより、減少傾向。
 (令和4年度は基本料金免除の影響で企業債残高対給水収益比率が増加)

(2) 施設の健全性

1 施設の老朽化の状況



指標	説明
有形固定資産減価償却率	率が高いほど、資産が法定耐用年数に近づいていることを意味し、施設の老朽化の度合を示す。
管路経年化率	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示す。

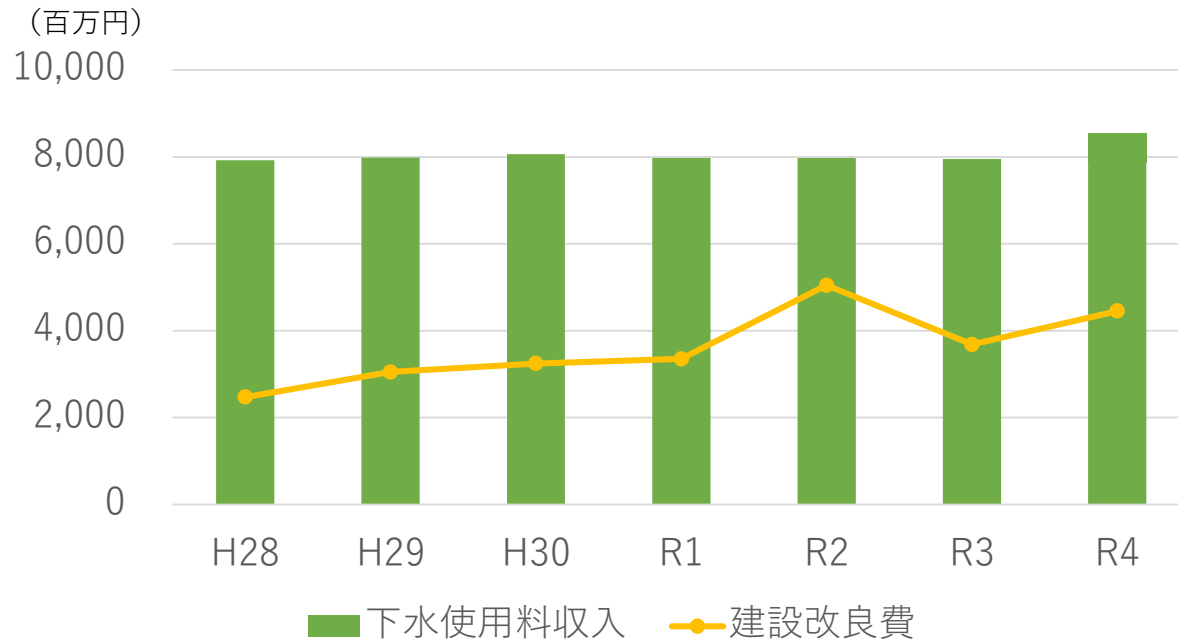
- ・ 有形固定資産減価償却率は、施設の更新により、令和4年度は微減したものの、管路経年化率は、年々上昇。
- ・ 今後、更なる更新需要の増加が見込まれる。



2 下水道事業会計の経営分析

(1) 財政の健全性

1 主な収入と支出

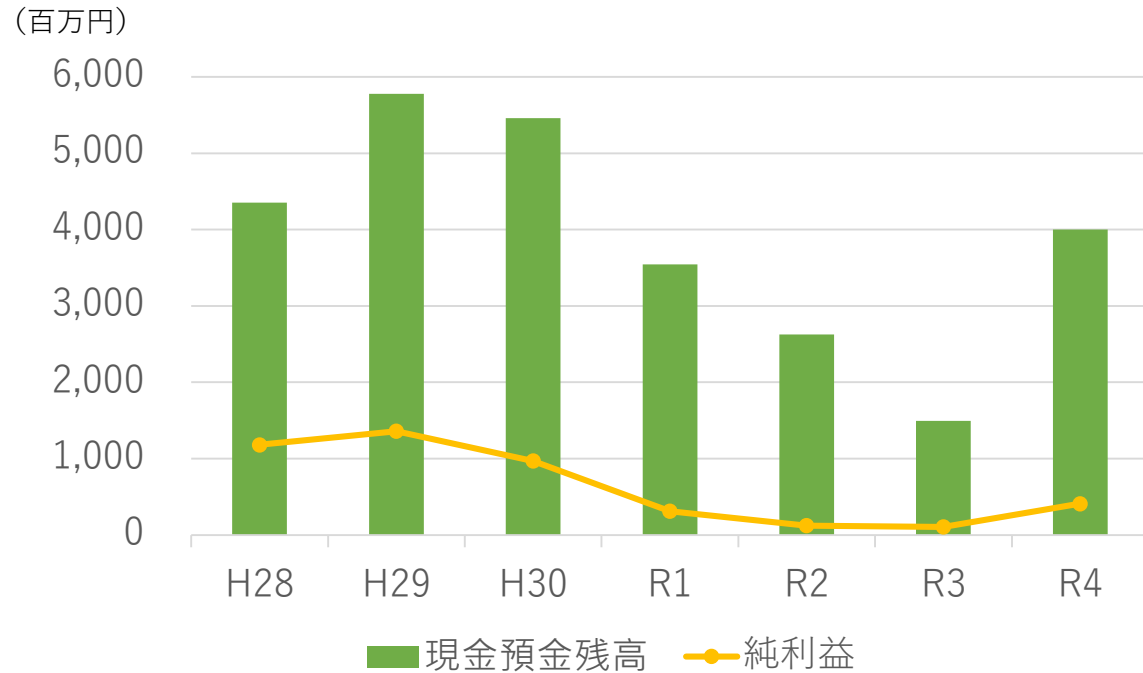


指標	説明
下水道使用料収入	公共下水道や、農業集落排水処理施設などの使用料収入で、下水道事業の根幹となる収入
建設改良費	施設・管路等の新設や更新、耐震化などに要する経費

- ・ 下水道使用料は、横ばいで推移（令和4年度は、一般会計で実施してきた生活排水処理事業の下水道事業会計への経営統合に伴い、微増）
- ・ 建設改良費は、施設・老朽管路の更新等に係る経費の増加に伴い、増加傾向。

(1) 財政の健全性

2 資金

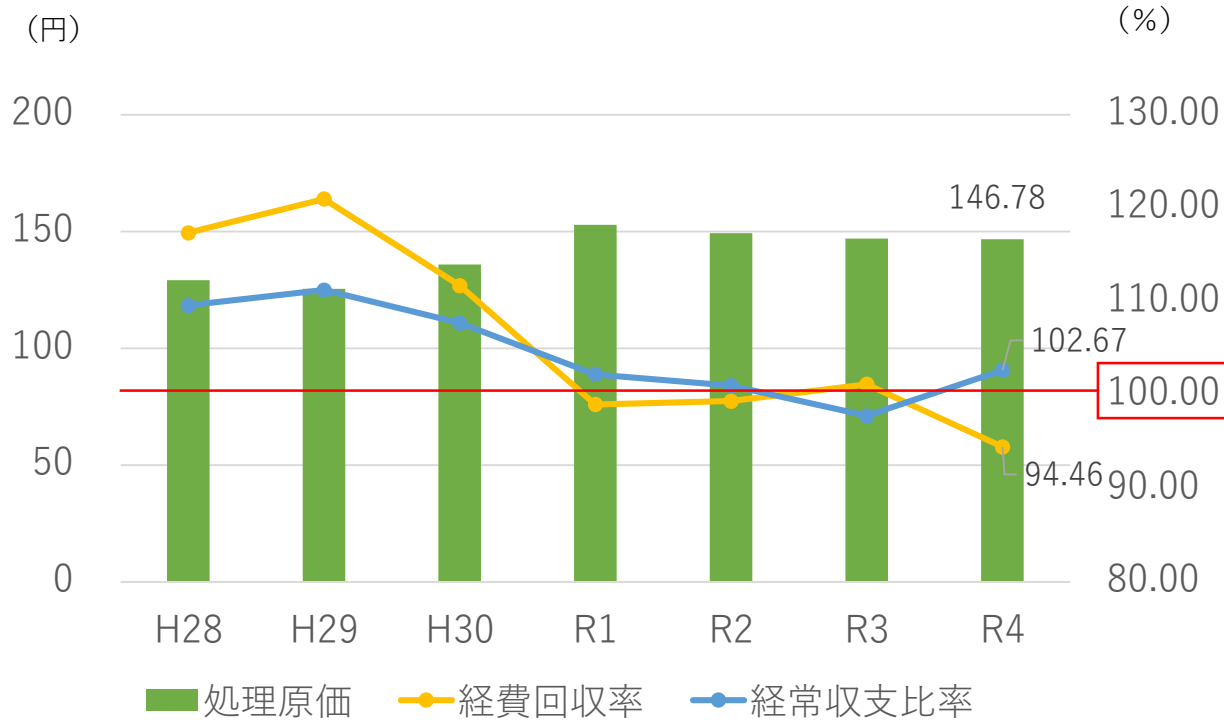


指標	説明
現金預金残高	—
純利益	公営企業における維持管理等の事業活動の結果、生じるもので、積立金として、主に企業債の償還の財源として活用している。

- 現金預金残高は、減少傾向
(令和4年度は未収金・未払金の増減などに伴い、前年から増加)
- 純利益は、1億円前後の低額で推移。

(1) 財政の健全性

3 財務指標①

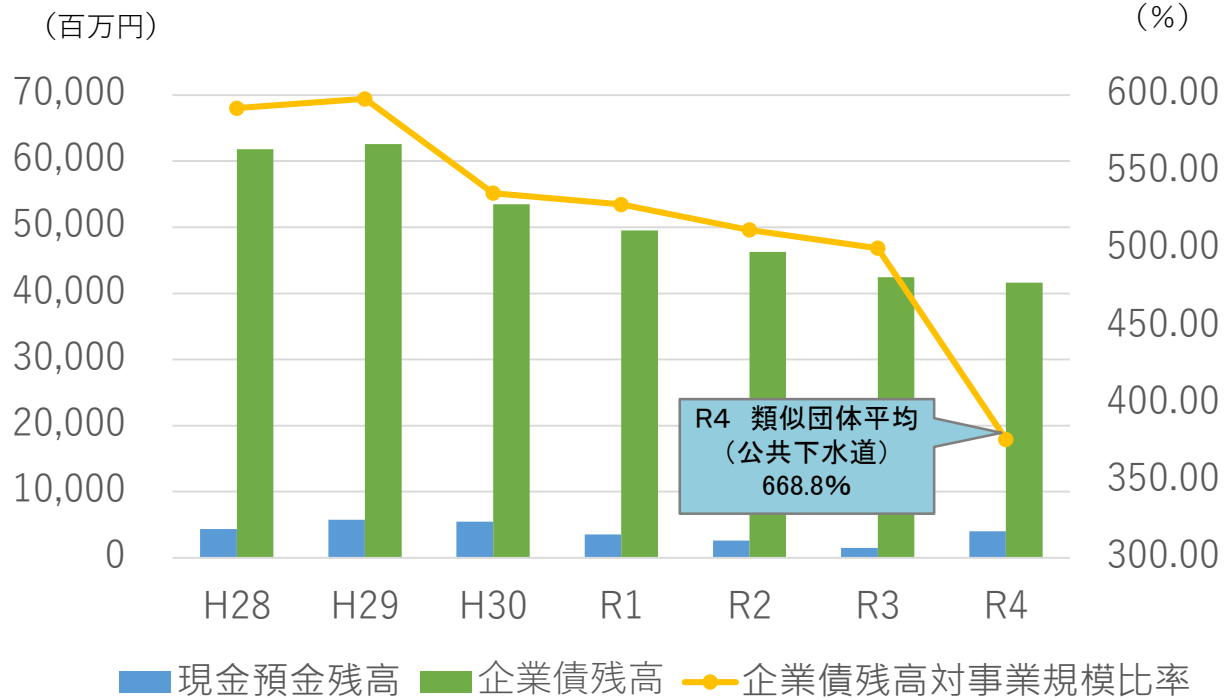


指標	説明
処理原価	汚水 1 m ³ を処理するためにいくら費用がかかったかを示す。
経費回収率	使用料で回収すべき経費を、どの程度、使用料で賄えているかを示す。100%を下回る場合、汚水処理にかかる費用が下水道使用料以外の収入で賄われていることを意味する。
経常収支比率	施設の維持管理等の経常費用が、給水収益等の経常収益でどの程度賄われているかを示す。100%未満は収支が赤字であることを示し、比率は高いほど良いとされる。

- ・ 処理原価は、増加傾向。
- ・ 経費回収率は、減少傾向にあり、近年は100%を下回る年もある。
(財政の状況は悪化)
- ・ 経常収支比率は、概ね100%を超えているものの、減少傾向。
(財務の状況は悪化)

(1) 財政の健全性

3 財務指標②

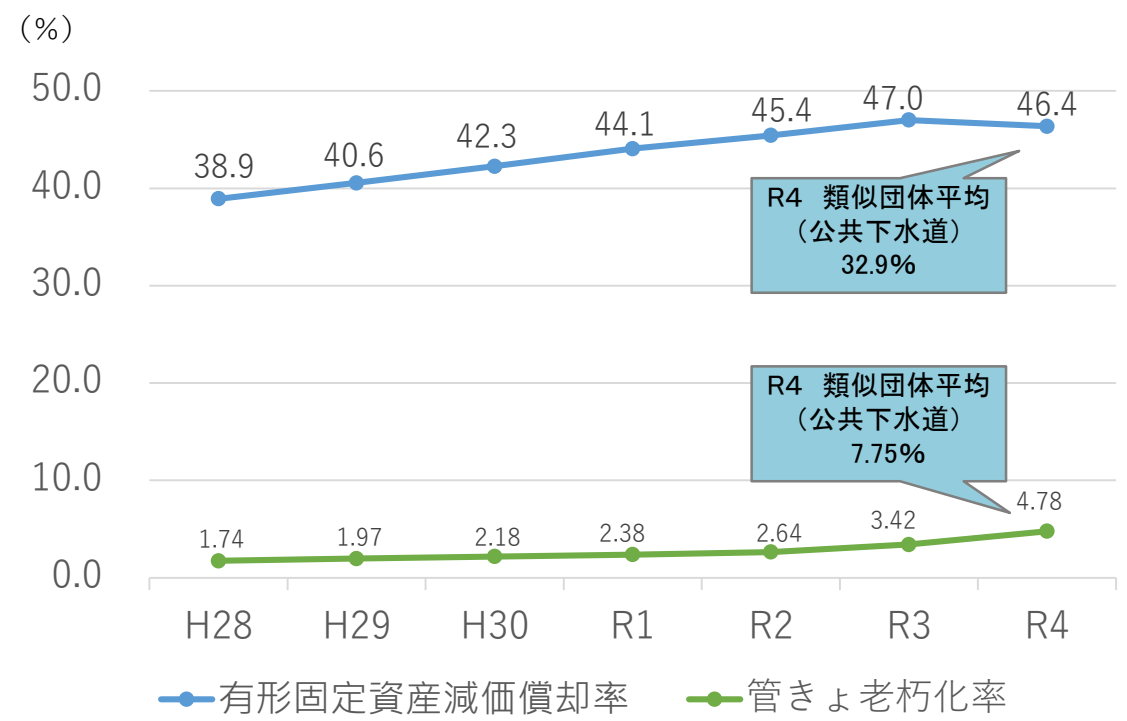


指標	説明
現金預金残高	—
企業債残高	企業債による借入金の残高
企業債残高対事業規模比率	使用料収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す。

・ 企業債残高、企業債残高対事業規模比率ともに企業債の計画的な抑制を図ってきたことにより、減少傾向。
 (令和4年度は、旧生活排水処理事業の統合に伴い、企業債残高対事業規模比率が大幅減)

(2) 施設の健全性

1 施設の老朽化の状況



指標	説明
有形固定資産減価償却率	率が高いほど、資産が法定耐用年数に近づいていることを意味し、施設の老朽化の度合を示す。
管きよ老朽化率	法定耐用年数を超えた管きよ延長の割合を表す指標で、管きよの老朽化度合を示す。

- ・ 有形固定資産減価償却率は、旧生活排水処理事業の統合に伴い、令和4年度は微減。
- ・ 管きよ老朽化率は、年々上昇しており、今後、更新増加が見込まれる。



3 まとめ

3 まとめ（水道・下水道）

財政の健全性

- ・ 料金, 使用料 : 横ばいで推移
- ・ 建設改良費 : 増加
- ・ 現金預金 : 減少傾向
- ・ 純利益 : 減少傾向
- ・ 料金回収率・経常収支比率 : 減少傾向



財務状況は悪化

施設の健全性

- ・ 管路経年化率 : 年々上昇
- ・ 管きょ老朽化率 : 年々上昇



今後, 更新増加

社会環境の変化

- ・ 人口減少に伴う給水量, 給水収益の減少
- ・ 近年の物価高騰や人件費の上昇
- ・ 地震や豪雨などに備えた災害対策
- ・ カーボンニュートラルに向けた脱炭素化への取組

持続可能な経営基盤の確保に向け

- ・ 収入財源の確保 : 給水収益・下水道使用料の確保への取組
- ・ 支出の圧縮 : 外部委託の活用や, DXの推進
- ・ 料金・使用料制度の検証 : 長期的な収支見通しに基づく料金設定



長期的な
視点で
最適化